

科目名	教員名
論述問題演習	福岡 英明

## 免許・課程

### 教職課程

### 資格課程

## 開講詳細

開講キャンパス	開講時期	曜日	時限	開講学年	単位数
渋谷	集中	スプリングセッション	スプリングセッション	カリキュラムにより異なります。	2

## 講義概要

### 授業のテーマ

現代日本の諸問題に関する小論文問題演習・集団討議等

### 授業の内容

※本科目は PCAP・パブリックサービスキャリアコースに登録している3年生のみ履修可となっております。公務員試験では、専門試験以外にも、論文試験・集団討議・個別面接などが実施され、そこでは主として政策論が問われます。本演習は、これまで馴染みが少ないであろう政策論を実践的に学ぶプログラムであり、主として地方公務員(上級)などになることを念頭におきつつ、我が国で生起する様々な社会問題の中からテーマを設定し(具体的には、高齢化社会・治安維持・地域の活性化・防災など)、実際の試験の過去問をも用いながら、論文問題演習・集団討議・個別プレゼン等の訓練を行ないます。

なお、2021年度前期の本科目は、2021.01.08.現在、対面授業として実施されることとなっておりますが、COVID-19(新型コロナ・ウイルス感染症)をめぐる状況は、前日=01.07.に首都圏の1都3県に緊急事態宣言が発出され、かつ、当日東京都では2,500人近い新規感染者が判明するなど、予断を許さないと云わざるを得ないのであつて、本科目の実施形態についても、別途示されるクラス別の募集要項(クラス別シラバス;「授業計画の説明」欄参照)を熟読した上で、今後の大学や各クラス担当教員からの連絡等に注意して下さい。

### 到達目標

- 以下の点につき、論文としてまとめることと、口頭で相手に伝えることが出来るようになる。
- ・現代日本の社会問題、特に公共的な政策的課題について、現状と問題点を説明できる。
  - ・問題点に対して実現可能な解決策を提示できる。
  - ・自らの考えを論理的かつ説得的に説明できる。
  - ・時々刻々変化する社会の問題に問題意識を持ち続ける。

## 授業計画

<b>授業計画</b>	第1回～第3回:初回の導入から始まり、公務員の仕事(公務員の種類・その仕事内容・試験科目等)の解説、公務員となるために準備すべきことなどについて解説した後、まずは、自己紹介文や希望する省庁・地方公共団体の志望理由を書く作業を通じて、論文の書き方の基礎知識を学びます。 第4回～:高齢化社会の諸問題・地域の活性化・防災のあり方など、実際の公務員試験でも出題されるテーマを取り上げ、実際に当該テーマについて論文を書いてみる中で、良い論文の書き方や、悪い論文とはどういうものか、なぜ悪い論文になってしまうのかなどを検討していきます。また、同じテーマについて、可能であれば面接形式や集団討論形式での検討も実施します。 第15回:まとめ(これまでの内容の復習)
<b>授業計画の説明</b>	本科目では、4人の教員が前期・後期に受け持つ各4の授業の中から1つずつを選び、履修することとなります。複数のクラスが開講されますので、具体的に取り上げる素材と授業の進め方は担当教員によって異なることとなります。募集の際に配布する各クラスの案内(要項)をよく読んで応募して下さい。各クラスの案内(要項)については、大学HPの教育開発推進機構・共通教育センターページでお知らせします(URLは <a href="https://www.kokugakuin.ac.jp/education/fd/iatl/cec">https://www.kokugakuin.ac.jp/education/fd/iatl/cec</a> )。

※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。

## 授業時間外の学習方法

事前・事後に配布するレジュメ・資料等(出来るだけK-SMAPYⅡにupします)をもとに予習・復習をして下さい。論文の作成には事前の準備が大切であるということを知り、体得することも本授業の目標のひとつです。また、自分の足りない点が見つかったら、関係する情報を図書館・インターネットなどで積極的に調べて下さい。授業内で書いた論文の書き直しを宿題とする場合もあります。

## 受講に関するアドバイス

本科目はPCAP科目であり、PCAPのパブリックサービスキャリア・コース登録者を対象者とするものであって、卒業後、公務員となることを志望している学生を想定しています。但し、現時点で公務員志望が固まっている必要はなく、授業の内容が現代日本の社会問題を扱うものであることから、最終的に民間企業に就職する場合でも、本演習の内容は役立つものと思われます。なお、特に公務員試験との関係では、本演習を3年次前期のみならず、後期にも履修することがより効果的であると考えられるのであり、こうした点をも踏まえて、計画的に学修するようにしましょう。また、いろいろなタイプの論述や討論の訓練を受けてみるという観点からも、前期と後期とは別のクラスを選択することが望ましいと思われるのであり、履修にあたってはこうした点も考慮するようにしましょう。

## 成績評価の方法・基準

評価方法	割合	評価基準
平常点	100%	授業時の論文問題演習・集団討議・個別プレゼン等において、「到達目標」で挙げた諸点につき、論文としてまとめることが出来たか否か、また、口頭で自分の意見を相手に伝えることが出来たか否か、その他、演習への貢献度により評価する。

※すべての授業に出席することが原則であり、出席自体を加点の対象とすることはできません。

<b>注意事項</b>	
-------------	--

※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。

実務経験に関する記載

履修登録制限・備考

## 教科書・参考文献等

### 教科書

特に指定しない。

### 参考文献

書名	著者名	出版社	備考
地方上級・国家一般職[大卒]・市役所上・中級 論文試験 頻出テーマのまとめ方	吉岡友治	実務教育出版	
公務員試験無敵の論文メソッド	鈴木鋭知	実務教育出版	
公務員試験 論文・面接で問われる行政課題・政策論のポイント	高瀬淳一	実務教育出版	
公務員試験 現職人事が書いた「面接試験・官庁訪問」の本	大賀英徳	実務教育出版	
論文試験の秘伝	山下純一	TAC 出版	
面接・官庁訪問の秘伝	山下純一	TAC 出版	
公務員試験受験ジャーナル		実務教育出版	
公務員試験学習スタートブック		実務教育出版	

### 参考文献コメント

その他、必要なものについては適宜指示します。

### 参考になるウェブページ